

青陵

本部、3支部 4年ぶり総会

令和5年、長年悩まされたコロナがやっと終息傾向になりました。本部を始め3支部の待望の総会がすべて開催でき、4年ぶりに元の形に戻りました。参加者総数は約370人です。その間に蓄積された「青陵魂」が発散され、どの総会も笑顔がはじけ大変な盛り上がりでした。

(編集室)

4会場に370人

ごあいさつ

教頭 與曾井 一史



同窓生の皆様にはますますご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素から「青陵高校」に対する深い愛情とともに、多大なご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

私は令和4年度から教頭として学校運営に携わらせていただいております、地域社会や国際社会

「青陵進化」のために一丸

を牽引するリーダーとして、その発展に貢献する人材の育成に努めております。

良き伝統を守りつつも、社会の急激な変化に対応できる「青陵進化」のために、生徒・教職員一丸となって邁進して参ります。

どうぞ進化し続ける「青陵高校」への変わらぬご声援とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会副会長

かなたに 金谷

のぶお 修男 (25期)



倉敷青陵高校を卒業以来、評議員や理事として同窓会活動に関わってきましたが、今後は副会長として携わることになります。微力ではありますが、会長を支えるとともに同窓会活動の充実と母校の発展のために今まで以上に力を尽くしてまいります。会員の皆様におかれましても、同窓会活動への一層のご理解とご協力、母校のさらなる発展のために力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副会長に選ばれ微力ながら尽力

8月、4年ぶりに開催されました。席上、役員改選が行われ、その場で副会長への就任が決まりました。

中止していた本部総会が令和5年

同窓会会員の皆様には益々ご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。さて、コロナ禍の影響で3年間



り、これまでよりやや少ない約200人の参加でしたが、華やかな総会となりました。

総会では、岡田展弘会長(25期)が「総会が3年中止になりました。お変わりありませんか。この会場で初めての総会です。今回は(ピアノリスト)松本和将さん(49期)のミニコンサートがあります。

200人の熱気 会場充満

とあいさつ、内田博文名誉会長(校長)が、「令和3年に赴任しましたが、やっ」と皆様にお会いできました」と切り出し、部活の頑張りや国際交流の再開など学校の現況を報告してくれました。

議事に入り、前年度行事・決算報告、会計監査報告があり、役員改選では金谷修男さん(25期)を副会長に、牧野元重さんを18期理事に、三村美留里さん(事務室)を会計に1という提案、さらに令和5年度行事・予算案を、いずれも原案通り賛成多数で承認、閉会しました。

特別イベントで、全国で活躍する松本さんのミニコンサートがあり、「幻想即興曲」や「ラ・カンパネラ」など7曲を約30分、華麗で繊細な演奏を聴か

コロナ禍前に完成していた豪華な雰囲気のエメラルドホールで初めて開催しました。会費値上げ元年でもあり、

せてくれました。一流の生演奏を聴く機会はあまりなく、今回の参加者はラッキーでした。松本さんは6月10日の東京青陵会総会に次ぐ出演でした。

一転、にぎやかな懇親会へ移りました。支部(青陵会)から招いた東京・高橋祥二(28期)、近畿・白神宏之(26期)の新任会長、九州の溝手博義会長(8期)の3人から支部だよりを聞きました。来賓の永井裕(19期)、土家楨夫の両元校長のあいさつもありました。

23のテーブルでは、3年のブ



朗クの積もる話で大いに盛り上がったことは言うまでもありません。予定の2時間半はあっという間に過ぎ、全員で校歌を斉唱して次回の再会を誓いました。

□…当番幹事の3、4、13、14、23、24、33、34、43、44期の皆様、ご苦労さまでした/事務局スタッフに青陵高在勤片岡はな子さん(59期)が加わりました/カット写真生け花(右)とピアノ演奏。

松本和将さん(49期)演奏にうっとり

同窓会本部総会

(令和5年8月6日、倉敷アイビースクエア)

卒業生寄贈の日本庭園

〈表紙の写真〉松や石、枯山水からなる校内中庭の日本庭園。心の落ち着く癒やしの空間。「第25回、26回、27回卒業生記念造園」の石

柱が立つ。築造から40余年後の学校創立110周年記念事業(令和2年度)で、芝生を張り替え枯山水に白い砂利を入れて美しく整備した。東隣のスペースは第28回、29回卒業生の整備。



金光(旧姓)日出子さん(21期)生け花奉仕

4年ぶり、しかも心機一転、新会場で開かれた同窓会は、注目されることが2つありました。

まず、ステージ上の金屏風を背にして設けられた生け花です。広い会場を彩り、ひととき目を引きました。金光(旧姓見島)日出子さん(21期)の奉仕です。

池坊華道教授で花名「玉芯」を名乗るこの道50年の金光さんは、毎年開かれる本部同窓会の会場に10年前から欠かさず生け花を飾ってくれます。

もう一つは松本和将さん(49期)が演奏後、緊急インタビューに応じてくれました。サッカーの好きな松本さんは青陵時代、**「学校をさぼって国際試合を見て遅刻、クラスで試合結果を得意気に教えました。当然叱られましたね」と**笑いをとり、「進路は東京の音高、岡山市の県立高校音楽コースを考えましたが、青陵を選択しました」と、初公開?の隠れたエピソードを披露、参加者は興味深く聞き入っていました。

松本さん、在学中の裏話を初公開?

話のほずむ各テーブル⑧と松本和将さんの演奏⑨。ステージ上は金光日出子さんの生け花

剣道部、生徒会、運動会楽しく

*岡正有紗さん(73期)

「令和4年3月に卒業したばかりです。2・3年生の担任の先生からはがきが来て『来てよ』と言われてね、看護専門学校に在学中です。小さい時から医療従事者になりたくて。剣道部でしたが高校で始めたので初段です。生徒会の司会を担当、うまくできましたよ。運動会ではブロック演技のダンスを指導、構成が評価され見事優勝したんですよ」(倉敷市在住)

参加者ひとこと

*柴田(旧姓逸見)道子さん(55期)

「(本部同窓会に) どうしたら参加できるのか分からなくて、編集主幹に直接電話したんですよ。そこで手続きしてもらって初参加しました。部活はコーラス部でした。岡山シンフォニーホールでハンガリーの国

ハンガリー国立歌劇団と共演

立歌劇団と共演しました。『子どもの声が欲しい』という要望があり、青陵に打診があり抜擢されたようです。部員約30人、1週間練習しました。最高の思い出ですね。最近、生保・損保の会社に入社、半年で契約数、県内1位を獲得しました」(浅口市出身、岡山市在住)

改訂版同窓会会員名簿



青陵高校の同窓会会員名簿が令和5年5月、発行されました。5年ごとの改訂で今回が第40号です。A4判、680ページに及ぶ大きな冊子です。ワインレッドの表紙に青陵高等学校のほかに、今回初めて倉敷高等女学校、倉敷高等学校の校章を合わせ3つ並べています。

5年改訂版同窓会会員名簿40号を発売

現旧教職員、卒業生約3万5000人のうち同年3月卒業の74期生までの住所判明者、住所不明者、物故者の名前をそれぞれ収録しています。

購入希望者を中心に配布しましたが少し残部があります。1冊3600円です。

九州青陵会

(令和5年10月14日、福岡・西鉄グランドホテル)

12人加
州大現役の
人が集
ました。勢
がほんど
んどで、
やはり
病気の
話題が
多く出
ました
が、久
しぶり
の顔合
わせ
でもあ
り和や
かな会
とな
りまし
た。

二代目会長に 加藤榮一さん(20期)

加藤新会長は「かつては20人ぐらいが集っていましたが、今回は少なかつたですね。参加者が増えるように考えます」と話していました。

懇親会では、年配の人



4年ぶり、元気に集った九州青陵会

くれました。

席上、発足当初から会長を務めた溝手博義さん(8期)が勇退し顧問に、加藤榮一さん(20期)が二代目会長に就任、従来の事務局長を兼務します。副会長は平野善次郎さん(20期)を再任、新しい体制を整えました。



勢ぞろいした東京青陵会のメンバー＝東京・明治記念館

新会長 高橋 祥二 (28期)

前回の総会は2019(令和元)年6月8日、我ら28期の☆である森和俊京大大学院教授を招いての総会でした。この時は森先生効果もあって約70人の同窓生が集いました。

なんと心配吹き飛ぶ96人

松本和将さん(49)の演奏で別世界

今回はそれから4年…。果たして何人参加していただけなのか全く予想がつかず、前年の役員会では「もし明治記念館開催で参加者が60人前後だと一気に繰越金を使い果たしてしまうかも？」とのシミュレーションがありました。



記事になった東京青陵会
陽新聞
令和5年6月13日付山

しかし、蓋を開けてみると今回は何と96人(来賓含む)の皆さまにご集いただくことができました。2016(平成28)年以来的の100人超えまであと少しでした。

来賓として出席いただいた内田校長、岡田本部同窓会会長、今岡同副会長、倉敷市東京事務所・黒明所長、本部同窓会事務局の林先生、49期のピアニスト松本和将さん、そして快く参加くださった東京青陵会の皆さま、本当にありがとうございます。

特に松本さんには、ショパンの「英雄ポロネーズ」やラフマニノフ「ヴォカリーズ」など全5曲を演奏していただき、その間の明治記念館・富士の間は、一瞬、別世界に包まれました。時間が押していたためアンコールできなかったのが残念です。

予算面から会場見直しへ

私の会長就任は2年ほど前から内定していたものの、役員の選任や交代は総会決議事項のため、このタイミングになりました。6年務められた四代目・武本幸寿会長(25期)からお話をいただいた際、一番感じたのは「これからの東京青陵会および総会の在り方を模索し、どのような形で『長続きできる組織』にしていくか？」が、我々世代の役員に課せられたミッション」という思いでした。そこで、まずは手始めに、この明治記念館では予算的に厳しいため、来年の開催場所から当たりをつけていると考えています。

本部同窓会の皆さまも含め、今後とも東京青陵会をどうぞよろしく願いいたします。

□…ピアニスト松本和将さんの出演で、今回の東京青陵会総会が新聞記事になりました。

五代目会長に高橋祥二さん(28期)選ぶ

総会で役員改選があり、四代目の武本幸寿会長(25期)が勇退、後任に高橋祥二理事(28期)が選ばれました。コロナ禍で総会の役員改選ができず、全役員が任期切れの状態でした。新役員はすべて新任、任期は2年です。役

- 員・事務局は次の通り。(数字は卒業期)
- 会長 高橋祥二(28) / 副会長 原由紀恵(39) / 理事 中原俊政(20)、寺山一己(23)、神島万喜也(24)、田淵光彦(26)、中村弘(29)、河崎孝夫(30)、佐藤尚彦(38)、山田裕之(40) / 会計監査 北田和江(22)、藤井達也(40) / 顧問 武本幸寿(25) / 事務局 清田耕一(21)、清田雅弘(28)、日岡秀和(30)

体調不良で無念の議員辞職

参議院議員の水道橋博士氏(33期)

参議院議員の水道橋博士氏(本名・小野正芳さん(33期)、東京都在住)が令和5年1月、体調不良のため議員辞職しました。前年7月に行われた参議院選挙のれいわ新選組比例代表で初当選したばかりでした。

同氏は当選後の秋ごろ体調を崩し、うつ病

と診断され自宅療養中でした。「当選させてもらったのに活動できない焦りや申し訳なさを周囲に漏らし、そのことから辞職を検討していました。」

在任わずか半年で無念の辞職でしたが、同年7月に仕事復帰、所属事務所を通じて「お仕事を一つ一つ誠実にやっていきます」との談話を発表しました。

□…本稿は新聞記事とインターネット情報を参考にしました。

新社長

東京ガス
笹山 晋一氏
ささやま しんいち 東大卒。
86年東京ガス、執行役員専務などを経て29年4月から副社長、60歳、倉敷出身。23年4月1日就任。

笹山さんは32期です。(令和4年12月22日付山陽新聞より)

ますます

今度は第16回内田百聞文学賞優秀賞に1。元小学校校長・鷺見(わしみ) 旧姓江本 京子さん(26期) が令和4年12月、見事、入賞を果たしました。鷺見さんは3年前の平成26期連続受賞!

木山短編賞に続き百聞賞優秀賞

小説『児島の梅』です。奈良時代の老女が万葉集に出てくる児島の生活ぶりを、1300年の時を超えて令和の若者に語ります。さて、その老女の素性は? というミステリー仕立てになっています。令和5年4月26日、岡山県立美術館で表彰式がありました。鷺見さんは小学校時代から文章を書くことが好きで、文学や歴史に興味

31年1月に第14回笠岡市木山捷平文学選奨短編小説賞を受賞、連続快挙を達成しました。

2つの文学賞は岡山県の生んだ有名作家を冠(かんむり)に、作品を全国公募している賞として定着、文学ファンに広く知られています。両方で入賞を果たした人はいないと思われ。今回は303編の応募があり、芥川賞作家・小川洋子さん(岡山市出身)らが審査、最優秀賞に次ぐ賞を獲得しました。鷺見さんの作品は短編



内田百聞文学賞優秀賞を受け、鷺見京子さんは岡山県立美術館(県郷土文化財団提供)

味を持ちました。定年退職後、「作家になる!」と自ら宣言して大阪文学学校、さらに埼玉県に転居して東京・新宿の小説教室に入り、本格的な作家生活をスタートさせました。益々のご健筆を祈ります。

遺作

長編自伝『満天の星を...』

立府京都の教師を勤めた倉女13期の小原(あたえ)さん。写真=倉敷市五日市に保存されている。晩年に書きためたものを長男の昭和61年に発行して今年で37年になります。

自伝は『満天の星を仰ぎて』と題す。575頁に及ぶ。「わが家」を第1時結



福田(旧姓) 與さん =倉女13期=



福田與さんの自伝『満天の星を仰ぎて』

婚、盲聾学校勤務に詳しい十二章にまとめている。

倉女時代は第五章に70頁にわたり記載しています。「新入学生は七十余名」とあり、担任から「毎日日記を書くように」と言い渡されました。

藤網藤太郎校長(精思・倉女4代)をはじめ先生方16人、さらに、在学中に亡くなった八木都野子さん、転校生今田敏子さん、英語が抜群の木村(のち藤井)嘉子さんら友人12人を表現力豊かに活写しています。時代背景や倉女時代の学校の雰囲気がよく伝わる貴重な資料でもあります。

同39年、58歳で初めて開いたクラス会には、「23人が集いましたが、友はめっきり少なくなりました」と寂しさのぞかれています。

趣味の短歌にも情熱を傾けるなど充実した人生がこの1冊に凝縮されています。

川柳

川柳歴40年、最近是一行詩にも力を入れる老いて益々お元気な三宅基雄さん(3期、90歳)を紹介します。

毎朝、川柳3句と1行詩1編を作り、山陽新聞読者のページへメール投稿します。作品が「時事せんりゅう」と「一行詩」コーナーに毎回のように載る常連です。

青陵時代は帰宅部でしたが俳句などの短文芸が好きで、ガリ版で句集を作って校門で配ったこともあるそうです。

本格的に川柳を始めるきっかけは突然やってきました。小学校の校長時代、朝礼で子どもたちが

卒寿 一行詩も

三宅基雄さん(3期)

話を聞かないので困っていたところ、保護者から「先生、俳句とか川柳にしてお話したら」というアドバイスをもらい実行しました。これが子どもたちに受けたのです。

それからは公民館講座に参加、久米南町の川柳誌『紋土』に投稿、川柳公園には句碑もあります。倉敷川柳社代表を務め、岡山市や総社市の市民文芸の川柳選者にもなりました。

三宅さんは「川柳は人間の気持ちを表現する手段としては最適です。趣味であり生きがいです」と話していました。

三宅さんの最近の作品=㊦=を紹介します。□…作品の一行詩は編集の都合上、複数行にしています。

一行詩

山陽柳壇 第四席 正義感淋しく泳ぐ泥の海

朝よ! 時事川柳を作って、一行詩を作って、朝の時間で自分に向き合う。一日として同じ日はなく、毎朝が新たなスタート。時間よ! カネよりも時間が欲しい年になる。夢と夢をつなぎ合わせて生きていく日々は多色刷りです。好奇心いっぱいです。人生よ! 来た道も行く道も山あり谷あり、いい時ばかりではない。くじけても落ち込んでも、もつと気楽に前を向いて生きる。

フリー編集者
吉田宏子さん (37期)

企 画

イラストレーター 和田誠展 岡山開催

岡山市で令和5年4～5月にイラストレーター和田誠さんの業績をたどる展覧会が開かれましたが、企画・監修を担当したのが、フリーランスの編集者・吉田宏子さん(37期)＝東

「和田番」20年 仕事の全貌に迫る

京都在住＝でした。

吉田さんは東京のアート系出版社でさまざまな本づくりに携わるとともに、フリー編集者として活躍しています。中でも「和田番」の編集者として20年以上、仕事を共にしており、今回の展覧会にはふさわしいキュレーター(運営企画者)です。

和田さんの生前の個展はポスターや絵本など特定のジャンルしか取り上げてきませんでした。吉田さんは「今回は「多彩なカルチャーの巨人」としてその全貌に迫りました」と、狙いを説明します。

展示の目玉は仕事を

1年ごとに時系列の「年表柱」にしたことです。和田さんの業績をほぼ網羅、観覧者を楽しませる工夫をしました。吉田さんのアイデアです。

吉田さんは和田さんについて「決断、行動、仕事のすべてが早いんですよ。新しいも



吉田宏子さんの活躍ぶりを紹介する記事(写真は吉田さん)

のへのアンテナも高く、常に動いて周りが追いつけないほどでした。たくさん仕事を抱えても残業はしません。その集中力に圧倒されましたね」と振り返っています。□…本稿は令和5年4月4日付山陽新聞を参考にしました。

高吉さんの焼き菓子レシピ集発刊を伝える記事(記事中の写真は高吉さん) 令和4年6月16日付山陽新聞



菓子研究家・高吉洋江さん(43期)が令和4年5月1日、

36種類 『最愛の焼き菓子』発刊

レシピ集『お菓子教室 tir o i r 最愛の焼き菓子』を発売しました。 神奈川県川崎

ピレシ

ル別に計36種類の焼き菓子を掲載し、調理手順を写真付きで分かりやすく説明しています。高吉さんは「この本を通して、多くの人とお菓子のある楽しい時間を共有できればうれしいです」と話しています。

菓子研究家 高吉洋江さん (43期)

市で主宰する tir o i r (ティロワール) で特に反響の大きかったレシピを厳選しています。定番のスコーン、マフィン、パウンドケーキからカヌレやレーズンサンドなど注目のお菓子まで八つのジャン

難波征男名誉教授 (15期) 高梁で講演

陽明学

陽明学の専門家である山田方谷(ほうこく)の研究家・難波征男(ゆきお)福岡女学院大学名誉教授(15期)が令和5年2月5日、方谷を顕彰する高梁市の講演会に招かれ、「一大元気を養う山田方谷」と題して話しました。難波さんは方谷が大切にしていた「誠意を尽くして人を思いやる心」という意味の言葉「至誠惻怛(そくだつ)」を解説した後、この言葉を

「至誠惻怛」(罌)を解説

実践する生き方を弓道に例え、「ただ的に当てて満足するのではなく、的の真ん中に射ることを目指すことだ」と述べました。その上で「大きく変化する社会を生きる現代人にもこの気持ちが重要」と結びました。

同市の顕彰会は、10年前から山田方谷をNHK大河ドラマに―という運動を展開しています。今回は山陽新聞が直木賞作家・澤田瞳子さんの『孤城春たり』の連載開始にちなみ、活動を盛り上げるために開いた講演会でした。□…この原稿は令和5年2月11日付山陽新聞の記事を参考にしました/難波さんは福岡市在住。

岡山・天神山プラザに常設展示

岡部玄さん (17期)



流木アート「天神鯨」と岡部玄さん＝岡山市

大きな口を開けた生き物がこちらを向いています。ギョ(魚)! 往年のフォークデュオあねのねのギャグではありません。久しぶりに岡山市の天神山文化プラザを訪れて、いきなり奇妙な木組みを見つけました。

玄関ピロテーターのこの展示物は流木アートで、説明板には「天神鯨」とありました。流木アートに取り組んで35年の美術家・岡部玄(旧名知敏)さん17期、総社市在住の作品です。全体を見ると、なるほど大きな鯨の形で

流木アート

岡部さんの「天満天神をまつる天神山に宿る天神岩や大地のエネルギ―を感じながら1カ月かけ

が立つまま入ることができ奥に行くほど細くなり、尾びれは植え込みの中へ消えています。親子連れらが口から出入りして楽しそうに遊んでいました。流木アートは誕生してまだ二十数年の新しいジャンルです。流木や漂流物を材料に、釘を使わずドリルやペンチで竹ひごと番線(針金)を使って組み上げる現代アートです。□…作品は老朽化により、令和6年3月に撤去されます。



医療現場で活躍する母校出身者

山陽新聞にメディカル（医療・医学）の特集ページが月1回のペースで連載されています。以前からこのページに青陵高校出身の医療・医学関係者がよく登場します。医

記事で拝見

師や理学療法士、管理栄養士など各分野で最新医療を駆使して地域住民の健康をサポートしています。多忙な医療現場を記事で拝見、主な人の活躍ぶりを紹介し

山陽新聞の連載「名医の系譜」に登場した松田忠和院長（右の記事の写真㉔）



岡山県西部の拠点病院の一つとして広く知られる天和会松田病院院長の松田忠和さん（18期）は、メディカルのページに毎年よ

松田病院院長 松田忠和医師

（18期）

国内第一人者 屈指の実績

譜に登場しました。治革によると、同病院は父和雄さんが昭和30年代に現地に開設しました。消化器外科を柱に救急医療にも力

した。

□：松田さんは青陵時代、音楽部、物理化学部で

肝臓・胆嚢・膵臓がん手術3000例

国内屈指の実績を誇り、今やこの分野の第一人者です。食道がんの名医は言います。「松田先生はすごい勉強家。知識と技術に裏打ちされた手術は見事」。注 松田さんは日本肝臓学会認定肝臓専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医です。平成21年にがん撲滅に功績のあった人に贈られる松岡良明賞を受賞しました。

「当初は苦労しましたが、末期がんの患者が最後の望みを託して来てくれるまでになりました」と、振り返っています。難易度の高い肝臓・胆嚢・膵臓がんの手術を多数手掛けて成功を重ね、生涯をかけたライフワークとなったのです。メスを握ってから40年以上になり、この間の手術は3000例に及びます。松田院長は、病院を新築、カテーテルなど最先端の化学療法を導入しました。37歳で父の病院に帰り、肝臓疾患を中心とした消化器がんの専門病院に転換させました。病院を新築、カテーテルなど最先端の化学療法を導入しました。37歳で父の病院に帰り、肝臓疾患を中心とした消化器がんの専門病院に転換させました。病院を新築、カテーテルなど最先端の化学療法を導入しました。

を入れました。

取り組みました。肝臓外科分野はまだ黎明期でしたが、がん手術に果敢に取り組みました。

ポイント、手術時間を短くし出血をどう抑えるか、病巣を切除する時、どれだけ肝臓を残し肝機能を維持するかであり、手術時間を短縮、ミリ単位の血管を縫い合わせる体力、集中力を養う研さんの日々を過ごしました。

長男の忠和さんは岡山大学第一外科で肝臓移植の研究に

川崎医科大学附属病院副部長 中西一夫医師（42期）

最近、脊柱管狭窄症という病気をよく耳にするようになりました。椎間板ヘルニアなども含め治りにくい腰の病気で長年苦しんでいる人が多いようです。

脊椎治療の第一線に立つ国内各地の医師とともに研究会をつくり、先端医療に取り組んでいる医師が、令和3年4月19日付で紹介され、注目を集めました。川崎医科大学附属病院整形外科副部長の中西一夫さん（42期）です。

記事によると、中西さんが取り組んでいるのは腰や臀（でん）部、下肢の痛みを緩和する低侵襲治療「経仙骨の脊柱管形成術（TSCP）」という方法です。背中を大き

く切開する手術ではなく、腰椎に挿入した細い管（カテーテル）で痛みの原因となっている癒着を剥がして症状を和らげる治療です。

根治はできませんが、高齢や身体的理由などで手術が受けられない患者の「痛みから解放してほしい」という要望に応えています。

脊柱管狭窄症にカテーテル治療



中西一夫医師の先端医療を紹介する新聞記事（記事中の写真は中西医師）

TSCPは局所麻酔で尾骶骨の少し上（仙骨）からカテーテルを挿入、原因部分を探り当てて生理食塩水を流して癒着を剥離します。治療時間は20分ぐらいです。この治療は最近、保険適用になりました。

中西さんは「癒着をうまく剥がすと痛みは治まります。現在、脊柱管に入れる内視鏡を開発

中で、将来は根治治療に挑みたいですね」と、意欲を示しています。

